

—他の人を^{いた}劳われる人に—

校長 稲田 正平

10月を迎えました。朝夕の気温が低くなり、過ごしやすい季節がやってきたように感じます。先日は生徒会の役員選挙が行われました。また部活動の部長たちからは、自分の部活動に対しての思いや決意も披露されました。10月21日には後期の専門委員会も立ち上がり、いよいよ2年生が中心となつての木崎中学校の生活が始まります。2年生を中心にさらに木崎中学校がより良い学校になることを期待しています。

さて、10月は台風などの襲来が多い月と言われているそうです。私は8月から9月が多いように感じていましたが、近年では10月に台風が上陸することが多くなっていると報道で知りました。確かに令和元年には10月に台風19号が接近したため、さいたま市内では全避難所が開設されたことも記憶に新しい出来事です。この台風19号の時には、私は前任校で避難所の施設管理者として約24時間対応しました。大雨による河川の増水や浸水被害が心配され避難して体育館で一晩を明かした方々は60名程いたと思います。まだ幼い子どもがいる家庭から年配の方等避難されてきた方々の年齢もまちまちでした。この時、避難されてきた方々が互いの立場を尊重し合いながら、幼い子のために早めに消灯したり、眠りについたら人のために小声で会話をしたり、足音を立てないように移動したり……様々な心配りをして過ごしていました。私も施設管理者として市の避難所担当職員の方と避難されてきた方々が少しでも不自由なく生活できるように打ち合わせを重ねた覚えがあります。こうした災害の時には「自助・共助・公助」がよく言われますが、自分の身は自分で守ると同時に、他の人を劳わる気持ちも大切であると感じます。ややもすると自分のことばかりで他人のことには目も向けないこともありがちです。しかし、このような態度ではいざ災害の時や事故などの時には適切な対応も難しくなります。日頃から自分だけではなく他の人を尊重し劳わる姿勢をもって生活することを心がけていかなければならないと思います。こうしたことから木崎中生には、他の人を尊重し劳わる姿勢を大事にする気持ちを育み、いざという時に地域に貢献できるようになってほしいと願っています。また、私たち大人が自分を取り巻く方々を大事にしながら生活をし、木崎中生の手本となれればと思っています。

新型コロナウイルス感染症の感染者が減少したことにより緊急事態宣言が解除となり2学期から実施してきたハイブリッド授業を終了させ、通常登校による対面授業に戻りました。今月からは教室での授業だけでなく実技の授業などでも木崎中生の活動は活発になることと思います。また通常登校になったことで25日に予定されている合唱コンクールの練習や11月の体育祭の練習で木崎中生の活動も充実したものになり、素晴らしい行事になることを期待しています。学校では引き続き三密を避ける、手指消毒、換気などの感染予防に努めながら教育活動を行ってまいります。保護者の皆様、地域の皆様も十分に健康管理に留意されてお過ごしください。

また、夏季休業期間から行われている北校舎の外壁塗装工事は施工期間が11月中頃までとなっています。様々ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。